

有名なる祇園新地の柳巷にして、西は、先斗町の花街なり、毎年七月の初に及べば、橋の上下兩岸に臨める青樓及び料理店は、家の背後より加茂川の碧流に枕んで、假床を築き、以て來往の便に供せしめ、河中の磧には、無數の小屋掛をなして、縦横幾條の通路を造りて、恰も市街の形をなし、飲食店、見世物小屋等あり、毎夜此に來りて遊ぶもの多し、之れを四條河原の納涼と云ふ。

●八坂神社 祇園新地の東端、東山の麓にあり、祭神は、素戔嗚尊にして奇稻田姫及び八王子を合祀す、官幣中社なり、もとは八坂感神院と號し、佛寺に屬したりしが、維新後分離して神社となれり、毎年七月、神事を執行し、十七日を以て、神輿は本社を出で、四條の御旅所に神幸し、二十四日を以て、還幸せらるるものにて、世に名高き祇園會と稱するもの是なり。

●圓山公園 八坂神社の北東に當れる山の半腹にあり、此に一大櫻樹あり、其の枝四方に垂れ、恰も花傘を開きたるが如くにして、花時の眺は一入なり、花の頃に至れば、近傍に篝火を焚き、花神の眠を覺し、遊人の心神を醉はしむ、是れ有名なる祇園の夜櫻なり、其の北の山嶺の半腹に、圓山鑛泉あり、廣宏なる建築にして、浴場其の他すべて洋風に擬し、清潔にして美麗なり、浴し去つて欄頭に凭れば、京洛の全市は、双眸に收り、

西北には翠巒の雲を掠むるなど、風光得も言はれず、此の鑛泉より下れば、數戸の旅亭及び料理店茶店等あり、其の南隣にあるは長樂寺なり。

●長樂寺 桓武天皇の草創したまひしところにして、傳教大師の開基なり、其の後頽破に及びたりしが、後水尾天皇、勅して之れを造營せしめたまひ、以て現今に至れるなり、境内廣潤ならずといへども、堂傍の庭は、相阿彌の經營にかゝるものにして、奇石を布置し、樹木を栽うるなど、一も忽にせしものなく、雅趣の掬すべきものある多く他に類なかるべし。

●賴山陽墓 長樂寺より一二町ばかり山を上りたるところにあり。

●智恩院 華頂山大谷寺と號し、淨土宗鎮西派の大本山にして、京都東山中に於ける第一の巨刹たり、地は、八坂神社の東北にあり、寺域は、東山の半腹に據り、頗る廣潤にして秀麗なり、本堂は、滿譽和尚のとき、徳川家康の命によりて、これを造營したるものにして、東西二十二間五尺、南北十七間餘、其の正面に掲げたる大谷寺三大字の額は、後奈良天皇の宸筆なり、世に其の名の高き智恩院の鐘は、本堂の東南にあり、高さ一丈八尺、直徑九尺にして厚さ九寸五分、寛永年間の鑄造にして、方四間の鐘樓に懸く、境内は、常に幽寂にして自から精舎の觀ありといへども、山門の下、路傍に數多の櫻樹を栽る

しを以て、開花の候に至れば、韻士俗客の別なく、此に來集するものなれば、忽ち喧囂の一場を現出す。

●將軍塚 東山の嶺にあり、此に登るの路三條あり、智恩院よりするもの、圓山よりするもの、長樂寺よりするもの、即ち是なり、此の塚は、桓武天皇遷都の時、丈八尺の土偶に、鐵の甲冑を被らしめ、これに弓箭と携へしめて、王城の守護神たらしめんがため、此に埋められたるものなり。

●東大谷 長樂寺の南隣にあり、東本願寺の祖廟とす、舊時は、今の智恩院の境内に、親鸞上人の廟舎ありしが、いつの頃にやあらん、鳥邊山の邊に移し、舊名を襲用して、大谷御廟と稱したり、是れ現今の西大谷の地なりとす、而して此の地は、其の分派に屬せるを以ての故に、これを東大谷とはいへり、其の廟舎は、元祿年中に建設したるものにして、輪奐の美、五彰の燦爛たる、多く其の比を見ざるところなり。

●建仁寺 繩手通四條下る建仁寺町にあり、もと土御門天皇の勅願によりて建立せられたる巨刹にして、源頼朝其の敷地を寄附し、建仁三年、其の土功を竣りしを以て、此の寺號あり、境内南門の傍にある摩利支天は、利益顯著なりとて、賽客常に絶ゆることなく、香煙たなびけり、境内は三萬餘坪ありて、松樹蒼鬱、幽寂にして自から別乾坤に入

るの觀あり。

●安井金毘羅 建仁寺の東に隣り、祭神は崇徳天皇を中央とし、其の左右に金刀比羅及び源三位賴政を合祀す、もとは觀勝寺の所屬にして、其の草創は、桓武天皇遷都以前にあるは明かにして、舊記の傳ふところなり、曾て藤原鎌足、此の地の幽靜なるを愛し、自ら藤樹を栽植して、家門の長人を祈りしとぞ、後、崇徳天皇此の境地を愛でさせたまひ、しばし臨幸して後、遂に其の傍に宮殿を營みたりき、然るに保元の亂に、讃岐へのがれさせたまひて、其の地に崩御せられしかば、後人これを祭りて、本社を建てたりと云ふ。

●雙林寺 安井金毘羅の南にあり、西行法師曾て此の寺に住居し、建久二年二月十五日を以て、此に寂せり、其の居所たりし西行庵は、今僅に其の遺跡を留むるのみ、もと此の寺は、圓山のごとく、幾多の僧坊あり、閑阿彌、文阿彌、林阿彌、西阿彌等の名ありしが、今は席貸、割烹居となり、四時來客の絶ゆることなく、景致頗る閑雅なり。

●高臺寺 雙林寺の南に隣れる古刹なり、初め自然居士の住地たりしが、應仁の兵燹に罹りて烏有に歸し、後、豊臣秀吉の北の政所、此に一寺を創す、即ち高臺寺是なり、其の建築の善美を盡せる、此に喋々を要せず、殊に其の廟舎のごときは、金銀五彩を飾り

て、目も眩せんとするばかりなり、背後の山を、獨秀峰といひ、時雨の亭榭、傘の亭榭あり、共に著名のものたり、是は千利休の嗜好に出でしものにして、雅致に當めることは、他に比類なかるべし、是の寺は、古來萩の花多く、秋風冷氣を感ずるの候に至れば、杖を曳くもの頗る多し。

●六波羅密寺

建仁寺の南、松原通にあり、天曆五年、京洛に於いて、疫病の流行甚だしかりしかば、死するもの日に幾千、空也上人これを痛み、自ら観音像を彫刻し、これを車上に載せ、洛の内外を巡廻して、大に祈禱するところなり、後、衆に勸めて、一寺を此に建立したるもの即ち是なりと云ふ。

●愛宕寺

六波羅密寺の西にある古刹なり、僧空海の開基になれり。

●八坂の塔

高臺寺の南にあり、舊八坂法観寺の遺跡にして、五層の高塔、碧空に聳へ、以て洛東に一壯觀を加へり。

●靈山

八坂の塔の東方の山を云ふ、山上に法正寺といへる古刹あり、其の本堂は、最高處にあるを以て、眺望快豁、圓山に譲らず、山中に、故木戸孝允の墓あり、また、維新以來戦死者の幽魂を慰するがために築きたる招魂碑あり。

●庚申堂

安井金毘羅の南にあり、東京淺草寺及び大坂四天王寺の庚申と、もに、

日本三庚申の一にして、夙に其の高く、表目には參詣人絶ゆることなし。

●子安観音

庚申堂より清水寺に至るの途中、清水坂の南側にあり、妊婦の安産を祈るもの多く、寺を泰産寺といへり。

●清水寺

清水坂の東端に位し、洛東第一の靈場にして、音羽山と號す、延暦二年、僧延鎮、坂上田村麻呂と謀りて、初めて堂宇を建立し、これを北観音寺と號せり、後、田村麻呂これを修築したりければ、殿堂壯嚴を極むるに至れり、本堂は、境内の南方にありて、懸崖に架し、前に舞臺を築きたり、此に登りて眺むれば、京都全市を脚下に認むべく、遠くは河内の金剛山を雲煙模糊の間に見るべく、風光快豁なり、音羽の瀧は、崖下に下りたるところにありて、三條の懸泉、清水を噴き、三丈の高きより潺湲として落つ、夏時此に來りて浴を取り、涼を納る、もの多し、門外兩側には清水焼を販ぐ家少なからず。

●清閑寺

清水寺より山間に入れば、此の寺に至る、延暦十一年、紹繼法師の草創せしところなり、寺内に、六條天皇、高倉天皇の御陵あり、世に此の邊を稱して、歌の中山といへり。

●鳥部山

清水寺を西南に下りたるところにあり、多くの墳墓ありて、古來諸宗の

埋葬地たり。

●西大谷

清水寺より五條坂を下り、延年寺社を折るれば、西本願寺の廟所、西大谷なり、門前に池あり、これに花崗石の眼鏡橋を架し、其の橋下に多くの蓮花あり、池畔老松古風多く、亦一佳景の地なり、池に臨みて酒樓茶亭多し。

●大佛

は方廣寺にあり、寺は、西大谷の西南、正面通りにあり、天正六年、豊太閤の創建したるところなり、大佛の像は、木框を造りて其の中心となし、これを造營したるものにして、左右より棧道を架したれば、其の背後を一周し得べし、境内に大鐘あり、其の名夙に世に響けり。

●豊國神社

大佛殿の南隣にあり、豊臣秀吉の靈を祭れり、別格官幣社にして明治十年の再建にか、れり、これより東の頂上を阿彌陀峯と云ふ、豊國廟あり、雄偉濶大。

●耳塚

豊國神社の前面にあり、豊太閤の朝鮮を征討するや、首級幾萬を獲たるも、悉く我國へ持歸ることを得ざるを以て、其の耳、鼻等を斬りて、これを鹽藏し、我國に送り來りしが、此處は、即ちこれを埋めたるどころなり。

●三十三間堂

豊國神社の南三町餘にあり、長承元年、鳥羽上皇、此の地に一の廣堂を造營したまひ、これを三十三間堂と號し、其の寺を得長壽院と名づけ、此に一千一

體の觀音像を安置したまひぬ、其の後、後白河上皇、また此に三十三間堂を造營し、同じく一千一軀の觀音像を安置し、これを蓮華王院と號させたまへり、後、寶治二年、右の二

寺ともに火災にか、りて、灰燼に歸したりしが、文永三年、これを再建して一寺となし、唯、蓮華王院の名を存せり、現今蓮華王院と稱し天台宗に屬せり、本堂は南北の桁行六十六

間ありて、二間を隔つること一柱を立てたるにより、これを三十三間堂とは號せり。

●東福寺

三十三間堂の南、伏見街道一の橋より一町ばかり南にあり、慶長七年、九條道長の創建にして、聖一國師の開基なり、古來七堂伽藍の巍々たるを以て、特に其の知らる、どころなりしが、惜しむべし、明治年間に至りて、火災のため其の過半を烏有に歸したりしを、されど、著名なる通天橋は、其の災を免れ、今なほ紅葉の勝區を以て知られたり、境内幽邃、殆ど六萬坪の廣袤あり。

●稻荷神社

東福寺の南十町餘にあり、稻倉魂命、素戔鳴尊、大市比賣命を合祀せる官幣大社なり、和銅元年、二月午の日、稻倉魂命此の地より十八九町を隔てし三の峰に垂跡したまひしかば、社殿を造營せしに、永享十年、此の他に遷座したるなりと云ふ、境内は、稻荷山によりて頗る廣濶、峯稻溪谷の間に、幾多の末社を建つ、これを巡拜するを御山巡りと云ふ、賽客常に絶へず、門前には、多くの茶店軒を並べ、伏見人形を販ぐ

家あり、伏見の稻荷と稱するは、即ち本社なり、本社鳥居前には、東海道鐵道の稻荷停車場あり。

●泉涌寺 三十三間堂の南にある山上なる古刹なり、僧空海の開基にして法輪寺と號せり、後、齊衡三年、左大臣緒嗣、これを再興するに及びて、眞言宗を改めて天台宗となし、名を遊仙寺と號せり、其の後、これが中興をなしたるは、俊務法師にして、眞言、天台、禪、及び律の四宗を兼修したりしが、當時靈泉の涌出せるものありしかば、これを泉涌寺と號するに至れりき、第八十七代四條天皇を始めとし、後水尾天皇以來の歴朝、其の帝陵は、皆此の寺の背後なる山腹にありて、層々相連り、孝明天皇及び故英照皇太后陛下の御陵は此に在り、是の故に、帝室の御保護淺からず、京都に遊ぶものは、先づこれを拜して而して後、他に及ぼすべし、是れ臣子の分たるに於いて、常に然るべきところなり。

●新熊野觀音寺 泉涌寺の山嶺にして其の北なる半腹にあり、四國巡禮札所觀音の一にして、其の名殊に高し。

●東本願寺 鳥丸通の南端にあり、教如上人の創建したるところなりしが、文政六年、火災を起し、ことごとく灰燼に歸したり、現今の堂宇は、十數年前の竣工にかゝり。

しものなりといへども、其の規模は、舊觀のごとく壯麗ならず、財政の困難と、もに世に有名なる精舎なれば此に贅するまでもなかるべし、其の東數町に別邸枳穀邸といへるあり、東本願寺の法主伯爵大谷某の別墅にして庭園の景致、數奇を盡せりとぞ。

●西本願寺 東本願寺の西にあり、これを本派本願寺とす、善男善女の賽するもの頗る多く、境内廣濶なり、寺内に三層の高閣なり、豊太閤の築きたる聚樂亭の園内にありしを賜はりて改築したりとかや、飛雲閣とは是なり。

●東寺 東本願寺の西南にあり、八幡山教王護國寺と稱するは其の本號なれども、古來東寺の名、世に知らるゝところなり、延暦十五年、桓武天皇、大納言伊勢人をして朱雀野の東西に二寺を建築せしめたりしが、嵯峨天皇に及びて、其の右方即ち西にあるものを、奈良の守敏に賜ひ、左方即ち東にあるものを、僧空海に賜ふ、今の東寺即ち是なり、域内に五重の塔あり、遠くよりこれを望むことを得。

●六孫王社 東寺の北門より數町の北にあり、舊は北隣の大通寺の所屬なりしが、今は分離して獨立せり、大通寺は、六孫王經基の邸宅のありしところにして、源實朝の夫人、本覺禪尼の主となりて建立したるものと云ふ。

●興正寺 道路を隔て、西本願寺の南にあり、眞宗興正寺派の本山にして親鸞上人、

はじめ山科に一寺を建立したりしが、後世これを此に移したるものなり、其の宏壯なること、兩本願寺に及ばずといへども、また壯麗なりと謂ふべし。

●島原遊廓 西本願寺の西、千本通りの東にある狹斜にして田圃の中に別廓を構へり。

●壬生寺 島原遊廓より北の方十餘町にあり、正暦二年、近江三井寺の僧、快覽僧都の開基なり、世に壬生狂言といへるは、中興の祖、圓覺上人の創始せしところにて、二十五番の猿樂あり。

●空也堂 壬生寺の東北八町ばかり、蝸薬師通にあり、天祿三年の建立にして、空也上人の開基なり、空也踊といへる念佛踊ありて頗る奇異なり。

●菅大臣社 菅公の父、菅原是善の邸趾にして、道真誕生の舊跡なり、其の産湯の水は、社地の東方にありて、其の傍に一基の碑を立つ、地は、西洞院佛光寺筋の北にあり、壬生寺を東に距ること十數町。

●因幡薬師 高倉天皇の特に平等寺の號と勅額とを賜はりし由緒ある寺院にして、現時の堂塔は、足利義教、將軍たりしときの再建にして、爾後五百餘年の星霜を経たるものなり。

●佛光寺 因幡薬師の東北にありて、接近せる巨刹なり、眞宗にして佛光寺門跡と云ふ、殿堂宏壯、略兩本願寺に類す、唯廣狹大小の差あるのみ。

●御影堂 五條橋の西にあり、天長年間、檀林皇后の本願によりて、僧空海の開基せしところなり、寺を新善光寺と號す。

●六角堂 六角通り鳥丸の東にあり、頂法寺と號し、聖德太子の開基するところなり、今此の坊に、池の坊といへるあり、古其の坊の住職、専慶なるもの、大に立花を愛し、之を研究して得るところありしかば、終に立花の祖家となり、今なほ其の流派をつたへ、賞美せらるゝに至れり。

●本能寺 寺町通り押小路にあり、日蓮上人の開基なり、天正十年、織田信長の弑殺せられしときは、油小路の東にありしとなり。

●妙満寺 本能寺の北六七町にあり、永徳三年の草創にして日什上人の開基なり。

●革堂 行願寺内にある一堂宇なり、鎮西の僧、行圓上人の開基せしところなり、上人の京洛にあるや、寶冠を頭に戴き、革衣を身に纏ひたりしが、世人革上人と呼びしより其の開基せる堂を斯くなん呼ぶに至りしなりとぞ。

●下御靈社 革堂の北にあり、貞觀五年の草創にして、早良親王、伊豫親王、藤原

吉子、文屋宮田麻呂、橘逸勢、藤原廣嗣、吉備大臣、火雷神を祭れり、此の地に三個所の御靈社あり、上中下是なり、其の祭神は、いづれも同一なり。

●梨本神社 寺町廣小路にあり、故三條實美の父贈右大臣三條實萬を祭れる別格官幣社たり。

●二條離宮 舊二條城の跡なり、現今宮内省の所屬にして離宮に充てらる。

●神泉苑 舊時は、二條通りより三條通りに跨り、壬生より大宮に至るまでの間の廣大なる御苑にして、桓武天皇以來、曆朝の天皇、御遊の仙境なりしが、中世以後漸次荒廢に歸し、殆ど滅絶せんとしたりしかば、僧覺雅なるもの、これを遺憾に思ひ、官許を得て、其の一部を修補し、此に眞言の道場を開きたり、今在るところのもの即ち是なり、苑内に池を穿ち、池中に三島を築き、風光幽邃の一仙境とす。

●西陣 京都市の西北隅に位し、堀河以西、一條以北の總稱なり、古來機織の業を以て、世に聞えたる地なり、製出するところの綾羅錦繡、實に目も眩するばかりにして、其の精巧驚くに堪へたり。

●北野天神 京都市の北端、北野右今馬場にあり、菅原道真を祀れる官幣中社なり、社域は、老樹生ひ茂りて、其の間に數多の梅樹あり、満開のときに至らば、紅白線

亂、翠松の間に交りて、風光優美なり、毎月二十五日の祭日は、此に賽するもの甚だ多く、社前小市をなすに至ると云ふ。

●疏水運河 近江の琵琶湖より運河を通じて、加茂川に水を引きたるなり、是は時の京都市知事北垣國道の規畫經營せしところにして、二個の隧道あり、一は二千二百七十餘間、一は六百餘間、延長凡そ四里半、實に偉大の土功と謂ふべし。

●聖護院 京都市の東北隅、下岡崎の正西、聖護院町にあり、智證大師の開基にして、初め常光院と號したりしが、中世これを聖護院と改稱せり、世々法親王の住みたまひしところにして、三井門主の隨一、其の名夙に著る。

●熊野社 前記聖護院町にあり、後白河上皇の勅願によりて、熊野の新宮を勸請したるところなり。

●金戒光明寺 聖護院の東に當る山腹にあり、淨土宗の開祖法然上人の居住したる舊跡にして、淨土宗鎮西四個の一本山なり、安元元年の創立にして、白河禪房と號したりしが、後宇多天皇の世に及びて、始めて此の寺號を賜りしとぞ、寺域三萬三千餘坪、山によれるに依て、幽寂閑雅の一名區たり。

●銀閣寺 淨土寺町にあり、足利義政閑居の地なることは、人の普く知るところなり。

り、相阿彌の經營に成れる庭園ありて、其の本石の市置、天地の好景を集め、幽邃閑雅、人工に成りしを覺へず、池畔に屹立せる一棟は、有名なる銀閣にして、閣下を潮音閣と號し、閣上を心空殿と云ふ。寺内にある東求堂は、義政在世の時の持佛堂にして、其の東端に茶室あり、義政の創始せしところにして、室の廣さ四疊半、茶家これを四疊半茶室の權輿とす。

●吉田神社

銀閣寺の西、神樂岡にあり、武甕槌神、經津主神、天兒屋根命及び姫神を祭る、貞觀三年、藤原山陰の祀るところにして、今や官幣大社たり、社域の廣潤、社殿の壯嚴なるは、稀に見るところ、域内に躑躅多ければ、花時來り遊ぶもの多し。

●眞如堂

神樂岡の東南、中山にあり、天台宗の僧、戒算上人の開基なり、境内一萬五千餘坪、殿堂壯嚴にして所々に小堂宇あり、地は幽寂にして靈場たるを失はず。

●如意が嶽

市の東方に聳ゆる山嶺にして、俗に大の字山といひ、近江の國に跨る、毎年七月十六日の夜、大の字形に山腹を焼く、實に一奇觀なり、此の大字は、初畫の一點にても、五百五十餘尺の長さに亘るこそ、其の由來を聞くに、むかし、淨土寺の伽藍、火災にか、りしとき、其の飛火の中に、本尊が此の山に止まりし故事により、爾來毎年七月十六日、これに擬して、火を此山に點じたりしが、僧空海、火を大字形に焼きて、天覽に

供し奉りしかば、

●鹿が谷

如意が嶽の下方にあり、其の麓に靈鑑寺あり、堯然法親王の母、靈鑑院尼公の開基せしところなり、其の上方に二院あり、一を安樂寺と號し、一を萬無寺と云ふ、二院相接して其の寺域を同するもの、ごごとく、老樹生ひ茂りて、人寰を絶てり。

●若王寺社

黒谷の東南にあり、初め若王寺と號し、後白河天皇の草創したまひしところなりしが、維新の後、神社となしたり、地は、櫻を以て著れ、花時遊人の杖を曳くもの多し、加之、梅花、杜鵑花等も多く、且つ其の山中に一の懸泉ありて、若王寺の瀧と稱し、水清冽、最も避暑に適す。

●永觀堂

若王寺社の南にあり、聖聚來迎山禪林寺と號す、清和天皇の勅願によりて、眞紹僧都の開基したるところなり、城内に池あり、池畔に繞らすに深樹を以てし、就中櫻、楓多きを以て、春花秋葉の眺、大に佳なり。

●南禪寺

永觀堂の南、栗田口の北にあり、もと龜山法皇の宸居たりしが、これを割きて、寺院となしたるものにして、境内六萬三千餘坪あり、考樹翁齋、幾多の佛殿を包み、晝なほ晦く、夏なほ寒し、眞に仙境と云ふべし。

●平安神宮

官幣大社にして桓武天皇を祀り、明治二十八年四月を以て、奠都祭

を執行せられたるところにして、社地一萬六千餘坪、前は、疏水の運河を擁し、後に聖護院の森の緑樹を繞らし、懸泉あり、泉地あり、本殿は、南に面し、其の前に紀念殿あり、古の大極殿に模擬して造營したるところにして、東西二十間弱、南北六間半餘、碧瓦粉壁、見る目まばゆく、實に壯觀なり、されど、古の大極殿に比すれば、半にも及ばずと云ふ。

●相國寺

舊御所の北數町にあり、萬年山承國禪寺と號す、永徳三年、足利義滿の造營したるところにして、僧妙葩これが開基となれり、禪宗五山の第二位にある巨刹にして、寺域二萬六千餘坪、考樹深く佛閣を鎖して、禪味に富めり。

●妙顯寺

相國寺の西五六町にあり、舊西洞院二條の南にありて、後醍醐天皇の勅願所たりしが、天正年間、此の地に移せりと云ふ、京都に於ける日蓮宗最初の寺院にして一名寺なり。

●妙覺寺

妙顯寺の北にある精舎にして、是れ亦日蓮宗なり、寺内にある花芳塔は、日蓮上人、叡山にありしとき、花芳の谷に於いて自刻するところ、其の内に、一穴を穿ち、自筆の法華經を藏す、又祖師堂は、飛彈の内匠の建築にかゝりしものにして、諸堂を造るもの、以て模範とするところなりとかや。

●白峰神社

今出川通飛鳥井町にあり、崇徳天皇及び淳仁天皇を合祀せる官幣中社たり、明治元年の創建にして社殿宏壯且つ清洒なり。

●百萬遍

前に掲げたる吉田神社の西北五町餘にあり、慈覺大師の草創にして、淨土宗鎮西派四箇寺の一なり、寺を長徳山智恩寺と號す、後醍醐天皇の御宇、疾疫天下に流行せしかば、天皇大にこれを憂ひたまひ、當寺の僧、善阿上人を宮中に召して、惡疫退散の念誦をなさしめたまひたるに、善阿、宮中にありて、一七日間専心念佛すること百萬遍に及べり、天皇これを嘉し、これを以て寺號とすべしと勅せられしかば、遂に寺號となすに至れりとぞ。

●北白川

銀閣寺の北にありて、白川の上流、此の邊を流過す、故に斯くは名づくるなり、志賀山越は、此の東方にして近江の志賀、坂本、唐崎等に出づる坂路に當り、怪岩奇石、溪流の間に伏せるあり、時つあり、景致幽閑、愛すべき名區たり。

●北山御所

北白川の北、舞樂寺村にあり、初め天台宗にして、其の末寺たりしが、幾變遷を経て、終に本願寺の有に歸し、現時の堂宇は、法如上人の建立せしところなりと云ふ。

●詩仙堂

北山御坊の北方、元一乘寺村にあり、石川丈山の遺跡として夙に世に著

れしところなり、幽篁四周を繞りて、自から別乾坤をなせり。

●山端 京都市の北郊にありて、若狭街道の一驛に當り、高野川の東岸に據りて、山水の奇勝あり、瀟洒なる酒樓ありて避暑の地としては申分なし。

●修學院離宮 山端の東にあり、後水尾天皇離宮の舊址にして、維新後は、離宮の名を除かれ、衆庶に拜觀せしめられたりしが、過ぐる年、これを離宮とせられ、今は全く其の拜觀を許されず、園内の景致は、得て言ふべからざるものある、固より宜なりといふべし。

●比叡山 近江山城の國境に跨り、京都市の東北に巍然たる高嶺なり、山嶺に延曆寺あり、初め桓武天皇の都を平安に奠めたまふや、帝都の鎮護たらしめんとし、僧最澄(傳教大師)をして造營せしめたまひしところなり、三塔ありて東塔、西塔及び横川と云ふ、又別に無動寺といへるあり、東塔の南、溪谷を隔て、十餘町にあり、眼下に琵琶湖を瞰望し、其の沿岸の風光を眺望し、風景明媚言ふべからず、山中最も高峻なるを四明嶽と云ふ、海面を抜くこと二千七百餘尺、天氣晴朗のときは、四國の峯巒を雲煙の中に望むことを得べし、山頂には、旅宿あらざれば、外國人の來りて避暑するものは、天幕を張りて、其の内に起臥し、盛夏を此に送るものありと云ふ。

●八瀬の里

むかし、天武天皇、大友皇子と戦ひて、敗れしかば、此の地に遁れたまひしに、皇子は、其の逃ぐるを追ふて、これを射たりしが、矢、其の背に中りきとぞ、故に矢背の里といひ、いつか八瀬の文字に作りしなりと云ふ、地は、比叡山の山麓にありて、これより北、大原に至るまでの間の部落の女子は、脚絆を履き、手甲を穿ち、梯子横槌等を頭上に戴き、京都の市街に出でて、之れを賣り、歸途需用品を購ふは、世に名高きものにして、大原女といへるは、即ち是れなり。

●加茂御祖神社

俗に下加茂神社と云ふ、加茂川と高野川との間にありて、京都市街の北にあり、社地は深樹の中にありて官幣大社たり、多々須玉依比賣命及び大山咋命を祀り、白鳳五年の造營にして、社殿の宏壯なること、其の類稀なり、其の境内の殿舎を悉く數へ來らば、幾十棟に及ぶべきや、測り知るべからざるなり、蔡祭と稱して古來行ひ來りし古雅の祭典あり、毎年五月十五日を以て、官祭を施行せらる。

●加茂別雷神社

前記加茂御祖神社より加茂川を溯ること十七八町にして本社に達す、俗に上加茂神社と云ふ、祭神は、別雷神にして官幣大社なり、桓武天皇奠都以前より鎮坐せしところの名祠にして、下加茂神社に譲らざるの社殿なり、前は御手洗川の清流に臨み、後に御生の翠巒を負ひ、山水秀靈の一勝區なり。

●岩倉實相院

京都市の北、北岩倉にあり、圓融天皇の御宇、戸部納言文範をして經營せしめられし古刹にして、智辨僧正の開基なり、寺域は、山腹に位し、古松老杉殿堂を鎖し、其の幽寂なるは勿論、櫻楓の二樹、處々に點在せしかば、春秋の眺も勝れり。

●鞍馬寺

京都北方にある名嶽なり、山中に一精舎あり、松尾山鞍馬寺と號す、延暦十六年、藤原伊勢人の草創するところにして、其の後幾變遷を経て、明治四年に至り、これを再興したるものなり、堂前より東を望めば、比叡山の峻嶺は、高く雲中に入り、數

多の峯巒起伏して脚下に彩り、波濤の漲るが如し、其の眺望の快豁なる餘ふるにもものなし、これより貴船神社へ詣でんには僧正谷を経て、二十五町ばかり、羊腸崎嶇なりといへども、景致幽寂なり、牛若丸が、少時來りて練習せるは此の寺にして其の名世に鳴る。

●貴船神社

古來請雨止雨を祈願するに、其の應驗顯著なりとて、夙に世の知るところなり、鞍馬山より二十四五町を下りたる山麓にありて、水神岡象神を祀る、現今官幣中社なり、社殿は、二個所にありて、奥の社、下の社と云ふ、相距ること五六町、奥の社は、幽邃寂寥として、老杉古柏天に聳へ、晝晦く、夏寒く、四顧凄然として、冷氣の迫るものあり、且つ霰客稀少にして雜草は、檀に蔓り、更に荒涼を加ふるの趣ある實に人寰を脱するの思ありと云ふべし、其の西邊にありて、石を積んで船形をなし、長さ二間餘、

●岩屋山

高さ一間餘、これを天岩船と云ふ、社地を繞れるは、御手洗川にして、溪水潺湲たり。

●今宮神社

京都市の北にありて、相距ること五里ばかり秀峯高く聳へて峻峻なり、山腰に一寺あり、金峯寺と號す、白雉元年、役の小角の草創にして、禪定を修せしところなり、天長六年、僧空海、此の靈場たるを知り、此に登りて不動尊像を彫刻し、一千座の護摩を修せり、山中の勝景擧げて數ふべからず、春花秋葉の節地の僻なるにも關はらず、これを訪ふものあり。

大門口にあり、前に掲げたる妙顯寺の西北數町にありて、素戔嗚尊、奇稻田姫を合祀せり、若狭川の清流を前にし、森林を後にし、景致閑雅なり、毎年陰曆五月十五日、例祭を執行し、船岡山の東の御旅所に神幸す。

●大徳寺

今宮神社の南にあり、正中五年の草創にして大燈國師妙超の開基なり、有名なる禪刹にして、俗に紫野の大徳寺と云ふ、地は古來紫野と唱ふるを以てなり、彼の雷名を誦したる碩徳一休和尚の舊居は、法堂の左にありて、これを眞珠庵と云ふ、境内は六萬八千四百餘坪、喬松深く鎖して、寂幽の名區たり、山門の樓閣は、千利休の修補したるものにして、自家の影像を置き、圖らずも罪を豊公に得たるところは、世の普く知る所のことなれば、此に略しぬ。

●建勳神社

大徳寺の南、船岡山にあり、明治二年の造營にして別格官幣社たり、祭神は、織田信長にして其の神號は、畏くも下賜せられたるところなり、社殿宏壯にして清酒なり。

●平野神社

北野神社(前に出づ)の西二町餘にあり、日本武尊、仲哀天皇、仁徳天皇、天照大神、天穗日命を合祀す、社域は、古來櫻樹を以て名高く、春陽駘蕩の頃に至れば、酒舗茶店、軒を並べて客を引き、其の雑踏言ふべからず、殊に夜櫻は一入の群集にして、高く篝火を焚いて、夜景を添ふるなど、夜櫻にては第一の場所たるべし。

●金閣寺

平野神社の西北七町餘にあり、むかし、西園寺公繼の山莊なりしが、後、足利義滿これを請ふて、此に金閣を造築し、遂にこれを寺となしたるものにして鹿苑寺と號せり、彼の有名なる金閣は、庭園の中央に位し、山層の高閣なり、閣畔に池あり、名を鏡湖池と云ひ、池中に奇石點々として水面を抽きて立てり、みな名あり、又、小丘に夕佳亭といへるあり、其の床柱は、南天の木にして周圍八寸、遠棚は、萩の枝を以て造りたるものにして、古雅愛すべし、寺僧に請は、隈なく案内して觀覽せしむるなり。

●等持院

金閣寺の所在なる衣笠山の西南にあり、足利尊氏の創建にして夢想國師の開基なり、尊氏以下の輩の木像は、此の寺内の昭堂にあり、みな東帶佩劍の坐像なり、

維新の際、浪士が、幕府の横専を憤り、斬つて三條橋に梟したるは、足利歴代の像なり、其の後、これを收集して接合したりと云ふ。

●妙心寺

等持院の南、木辻の西にあり、初め左大臣清原夏野の別莊にして、世々これを領したりしが、花園上皇深く此の地の風色を愛したまひ、當時これを領したりし清原夏枝に替地を賜ひ、これを離宮となし、此に閑居したまひしが、後、これを捨て、寺となし、正法山妙心禪寺と號せり、而して方丈の背後に、一院を創したまひて、此に潜居せられたり、今寺内にある玉鳳院といへるは、即ち其の跡なりと云ふ。

●法金剛院

妙心寺の西南三町餘にあり、此の地も亦清原夏野の山莊なりしが、其の次子瀧雄、其の丘上に一棟を築きしが、歴代の皇上しばしば此に臨幸せられ、景致の勝を以て稱せられたり、後、いつの頃にか、これを寺院となしたりしが、年を経るに従ひ、いたく荒廢せしが、崇徳天皇の御宇、待賢門院これを復興し、法金剛院と號せり、當寺は、四宗兼學にして本尊阿彌陀佛は、佛工春日の作なりとぞ。

●雙の岡

法金剛院の西北に當りて、南北に連亘せる三個の岡あり、一の岡、二の岡、三の岡の名ありて、之れを總稱して雙の岡と云ふ、吉田の兼好法師が、此に草庵を結びて閑居したるところにして、其の舊跡と稱するは二の岡の西麓にありとぞ。

◎高雄神護寺

清瀧川の溪に沿ふて、少しく上れば、高雄山中、最も楓樹の多きところ、兩崖は悉く楓樹ならざるはなし、道路二岐に分る、右すれば當寺に至り、左すれば紅葉屋の割烹店に達すべし、神護寺は、和氣清麻呂の草創せしところにして、之れを神願寺と號せり、淳和天皇これを僧空海に賜ひ、神護國祚眞言寺と改稱したり、櫻門の下方、路傍に額書石といへる巨石なり、傳へ云ふ、僧空海、勅を蒙りて、暴漲せる清瀧川の流を隔て、彼方の岸に額を立てしめ、其の石上より筆を投じ、以て金剛定寺と書きしところなりと、奥の地藏院は、此の山中第一の好景、筆以て叙すること能はず、畫以て寫すこと能はざる絶景なり、故に高雄に來遊するもの、此に來らざるはなしとぞ。

◎槇尾西明寺

清瀧川の溪に沿ふて上れば、當寺に至るべし、寺は、僧空海の徒弟、智泉法師の開基なり、楓樹に乏しといへども、樹木翁鬱として深遠なり、亦以て景致幽雅の一勝區たり。

◎梅尾高山寺

西明寺より對岸の溪に沿ふて上ること數町にして白雲橋あり、古は、此の橋畔に山門ありしことは、古書に見えたれども、今は其の跡だにも留めざりき、これより七八町の坂足を登りたるところに一精舎あり、高山寺と云ふ、華嚴宗にして眞言宗を兼ね、嘗て明恵上人の住するところ、上人は、我が國製茶の始祖にして、現時内外に噴々

として其の名を博したる宇治の茶園は、もと此の地より移植したるものなりと云ふ、此の寺、以前は殿堂壯麗を極めたりしが、明治の世に至りて回祿の災にかゝり、今は唯其の名を存するのみにて、一茅屋あるのみ、されど、天然の風光は、今も昔も異ならずして、紅葉満山を染め、所謂二月の花よりも紅となるの候に至らば、筆舌の能く盡すべきところにあらず。

◎護王神社

前に掲げたる神護寺の下にあり、舊時神護寺の境内にありて、護法善神社と稱へたりしが、前きに佛寺より分離して、別格官幣社に列し、護王明神の神號を賜はれり、祭神は、如何なる神ぞ、是ぞ天日を將に墜ちんとするに回したりし、和氣の朝臣清麻呂公を鎮め奉りしところなり。

◎般若寺

高雄より鳴瀧を経て來れば、其の西北の山上に一寺を認む、是れ即ち般若寺なり、本尊文殊菩薩の外に、觀賢僧正の像を安置せり、僧正は當寺の開基にして讀岐の人なり、僧空海が、弘法大師の諡號を得たるも、全く僧正の奏請に依りたるものなりと云ふ、如何に空海を徳とせるや、以て知るべきなり。

◎嵐山

京都の西に當れる山嶺にして、古來櫻花の名所を以て著名なり、山は、大堰川其の麓を流れ、林木翁鬱、春陽の眺、新緑の景、特に佳なるところなり、此の山の櫻は、

龜山上皇、吉野の櫻樹を移植したるものなりと云ひ傳ふ、北岸に割烹店あり、三軒家といふものは是なり、有名なる吐月橋は、三軒家の下流より法輪寺の山下に架せる長橋にして、一に御幸橋と云ふ、其の上流三町に千鳥が淵あり、戸無瀬の流は、山中にありて風光清絶、其の深上に淺黄櫻の大樹あり、西方の山腹に大悲閣あり、其の西北の山麓に鑛泉場あり、炭酸泉にして、慢性痲質私に特效ありと云ふ、三軒家の沿岸より舟を泛べて、此の勝景を探るものは、此の鑛泉場を限りとす、されど、此の上流保津川の奇勝を探らんと欲せば、鐵道によりて丹波の龜岡に至り、此處より舟に賃して川を下れば、沿岸の勝景は、送迎に忙はしく、一々應接に迫あらず、殊に最も佳なるは、新緑の頃にして、躑躅其の間に點綴して、翠綠中に紅を浮べるもの、實に奇絶快絶、到底筆舌の能く盡すところにあらず。

●太秦廣隆寺

京都市を西北に距ること一里半、太秦村にあり、聖德太子が、其の侍臣秦川勝に命じて創建せしめたる所なり、古來有名の巨刹にして、太秦形の石燈籠は、境内にあり、石工の多くは模形とする所なり。

●廣澤池

太秦村の西北にありて、嵯峨村上嵯峨に屬し、古來觀月の勝地を以て賞せらる、其の對岸に一峯あり、遍照寺山と云ふ、もと遍照寺なる精舎のあるを以て、斯く

は名づくるものにして、其の舊蹟は、池の西北にあり、山中に寛朝登天の松、坐禪石、兒石等の名跡の見るべきものあり。

●大澤池

廣澤池の西北五町餘にあり、古來和歌に詠するもの多し、池中に一島のあり、菊島と云ふ、其の西北隅にありて、池中に奇石の時立するを庭湖石と稱し、是亦詠歌多し、此の地は、舊嵯峨天皇の離宮のありしところなれば、今なほ其の舊址と思はる、もの少なからず。

●大覺寺

嵯峨天皇離宮にして嵯峨院と稱し來りしが、天皇崩御の後、漸次荒廢に傾きければ、淳仁天皇之れを寺院となし、皇子恒寂法親王をして之れが開基たらしめたりしが、以來世々法親王の在住せられたる所なり、寺域二萬餘坪、古松佛殿を鎖して、幽寂の勝區たり。

●清涼寺

俗に之れを稱して、嵯峨の釋迦堂と號して、其の名世に著る、前記の大覺寺を距ること西へ三町、本尊たる釋迦如來は、赤梅檀の釋迦と唱へ、天然の毘首羯摩天の作にして海内無二の靈像とす。

●愛宕山

嵯峨村の上方にあり、一の鳥居より五十餘町を登れば、峰頭白雲峰に達す、山上に神社あり、伊弉册尊、火産靈尊を祀れり、飯綱社、太郎坊社、子守勝手社、十

二天社、八天狗社、春日社等、其の邊傍にあり、其の他名蹟としては、渡猿橋、日暮の瀧、試時、南星峯、橋が原等あり、此の山中に、むかしより土杯投の遊戯あり、土杯を取つて、之れを空中に抛てば、飄々として風に従ひ、恰も飛鳥のごとく、やがて、深溪に落下す、實に佳興なり。

●月輪寺 愛宕山の半腹にあり、愛俊法師の開基にして關白九條兼實の中興したるところなり、本堂の背後に白色の岩石あり、これを白石と云ふ、五條橋上より西を望めば、之れを見ることを得べしとぞ、其の附近に、高野の瀧、鯛の瀧の一瀑あり。

●小倉山二尊院 小倉山にあり、天台、眞言、律、淨土の四宗兼學なり、其の開基草創は詳ならずといへども、淨土宗の開祖法然上人の中興したる處なり。

●野の宮 二尊院の東南數町にあり、天照大神を祀る、傳へ云ふ、古伊勢の齋宮に移りて住みたまへる内親王の移住前に、此に潔齋したまへりし處なりと、斯くも往昔より在りし社なれば、其の名の夙に著はれしなるべし。

●天龍寺 下嵯峨村にあり、初め檀林皇后の檀林寺を草創したまひしに起り、禪宗五山の第一位に居る、寺域三萬七千三百餘坪、洛西に於ける著名の巨刹とするところなり。

●法輪寺

嵐山渡日橋の南にあり、天平六年の草創にして、其の開基の誰たるかは、得てこれを知ること能はずとぞ、毎年陰曆三月十二日十三日には、俗に十三參と稱へ、年齢十三に達したる男女が、此の寺に賽するの風習ありて、頗る雑踏を極む。

●松尾神社

上山田村松尾山の麓にあり、官幣大社にして大山咋命、市杵島姫命の二座を祭れり、和銅二年、加茂より此に遷座し、大寶元年、其の神殿を造營したるなりと云ふ、攝社、末社等の小祠は、山上山下に散在し、洛西に於ける大社なり。

●梅宮神社

西梅津村にあり、大山祇命、木花咲耶姫、大若子神、小若子神、酒解子神を祀る、官幣中社なり、今婦人の産月に臨むもの、當社の土砂を佩びて、平産を祈るの俗あり、其の由來を釋ぬるに、嵯峨天皇の皇后檀林皇后、皇子なきを憂ひ、大山祇神、木花咲耶姫に祈りて、仁明天皇を降誕しましたるに依り、これを以て今もなほ然るなりと。

以上記載するところは、概ね京都市街に遠からざる附近の名勝舊跡のみに係れり、されど、日本の公園として稱道せらる、土地なれば、尙ほ此の外に多かるべしと雖も、悉く之れを記載せんは、小冊子の盡す處にあらず、依て京都府下において、著名なるものを左に掲載して本書を終らんとす、尤も本書鐵道線各停車場の項に掲げたるものは、これを除けり。

●勝持寺

乙訓郡大野原にありて、京都市の西に當る、役の小角の開基にして、文德天皇の尊信を蒙りて、勅願所となり、大に伽藍を修營せられたりき、其の後、足利尊氏、八幡山崎の戦に當りて、搦手にありしが、近傍の寺社に就いて、祈願するところあらしめたるに、當寺の住職、一竿の箴竿を切り、これに勝持寺の三字を書して贈りたり、尊氏、勝持の二字に就いて、大に悦び、後、將軍となるに及んで、特に寺領を寄附し、子孫相繼いで、これを尊重したりと云ふ、山下の下馬橋より一里ばかりの山中に樓門あり、これより三町餘にして本堂に至る、境内廣潤、古來櫻樹多く、俗に花の寺と稱せられたりしが、今は僅に其の面影を存するのみ。

●西岩倉金藏寺

元正天皇の養老二年、勅願によりて創建せしところにして、隆寶禪師の開基なり、桓武天皇平安遷都に際し、四方の靈地を選びて、大藏經を藏せられたる西部の岩倉は、本堂の東なる山上にあり、其の西岩倉と云ふは、これに依れり。

●柳谷觀音

乙訓郡海印寺村大字淨土谷村にあり、柳巖山楊谷寺と號し、通稱を柳谷觀音と云ふ、白河天皇の御宇、水觀上人の草創したるところなり、古來眼病に罹るもの、こゝに祈らば、平癒すべしとして賽するもの常に絶へず、尋常の參籠者亦甚だ多くして、洛繹として跡を絶たすと云ふ。

●寶寺

乙訓郡山崎なる天王山の半腹にあり、古松老檜天を蓋へるの間に、幾百層の石燈を通じ、これを登れば樓門あり、本殿に安置する十一面觀世音の立像は、丈六尺七寸にして、聖武天皇、行基僧正と、もに、自ら刻ませたまひたるものなりと云ふ、此の山は山勢雄偉、淀川を隔て、八幡山と相對峙し、淀川に浮ぶの白帆を脚下に望み、風光清絶、近傍これに及ぶものなからん。

●法嚴寺

山科村大字小山より二十餘町なる牛尾山の半腹にありて、古來著名の巨刹たりしが、今や然らず、此の山は、香羽山の一峯にして、山勢秀絶、古松老杉に富み、また、櫻楓の二樹少なからず、法嚴寺に登る道路の右傍に、御經岩と稱するあり、弘法大師誦經の舊址にして、岩石峨々として聳へたり、それより一町ばかりを登らば、銚子の瀧を右方に眺め、仙人洞を左方に見るべし、むかしは、今の地より六町ばかりも上方にありて、寺域七八町の廣きに亘り、堂塔伽藍、巍峨として頗る壯觀を極め、京都清水寺の奥の院と稱したりしが、中世衰へて現今のごとく、微々たるものとなりしとぞ、傳へ云ふ、本尊の千手觀音は、天智天皇の御手づから刻ませたまひたるものとなりと、本堂の背後を上りて、山頂の舊址に至れば、琵琶湖を眼下に望み、眺望快密にして絶佳なり。

●醍醐寺

宇治郡醍醐村にあり、延喜四年、醍醐天皇の勅願によりて草創せし所に

して、聖寶尊師の開基なり、堂塔伽藍は、山上と山下とにあり、山上は上醍醐にして、山下は下醍醐なり、下醍醐にありて、重なる堂宇は、本堂をはじめ、開山堂、五重の塔なり、此の本堂は、豊臣秀吉、醍醐天皇の御遠忌に當りて、建立したるものなりと云ふ、これより上醍醐に上るには、一町ごとに石標を立て、すべて三十七町あり、漸次上るに従つて、観音堂、五大堂、祖師堂、薬師堂等あり、松杉蒼鬱として晝晦く、夏寒く、白雲時に起りて、山嶺を鎖すことあり。

●三寶院

醍醐寺の山門より左方に入りし所にあり、本殿は、豊太閤賞花の舊跡にして、其の名夙に世に知らる、所なり、玄關、寢殿其の他の建物は、豊公當時のものにして、壯麗言はん方なく、古雅愛するに堪へたり、殊に林泉は、巧緻精妙、區々其の趣を異にし、他に比類なきの結構なり、就中其の池畔に立てる巨石は、藤戸石にして、二條城造營のとき、織田信長の取寄せしものなるが、豊公これを當寺に寄附せしものにして、源平の戦に、佐々木盛綱、藤戸の渡津を探りしとき、案内者を斬りしは、實に此の石の上なりしと云ふ。

●黄檗山萬福寺

宇治村大字菟道にあり、隱元和尙の開基にして、黄檗派の總本山なり、伽藍は、寛文三年の創建にして、すべて支那の風に模せり、寺域七萬七千三百餘

坪、其の壯麗なるもの、京都市中といへども、多く其の比を見ざるところなり。

京都は桓武天皇、遷都以降、今上天皇、都を東京に奠めさせ給へるまで、一千餘年間の帝都にして、時に或は兵燹に罹り、神社佛閣の烏有に歸し、或は變遷推移によりて、其の舊跡の湮滅せるもの少なからず、然れども、到るところ神社佛閣ならざるはなく、向ふところ勝地名區ならざるはなし、實にや日本の公園とこそ謂ふべけれ、されば、是等を一一記載せんは、到底小冊子の盡し得べきところにあらず、泥んや、本編のごとくに於いてをや、此に記載するところのもの、固より百中の一にだも及ばず、是れ止むを得ざるの致す所なればなり、依つて他日を待つて、更に詳密なるものを編述せんとす、讀者之を諒せよ。

●大阪附近

●大阪城 大阪市街の東隅にあり、天正十年、豊臣秀吉の築くところにして、一に金城と稱す、周回一里餘、今や第四師團の本營となれり、天守閣の礎石は、今なほ残れるが、其の宏大にして高く峙ちたるさへ、いと高きに、此の上に、五層の樓閣ありしものなれば、其の巍然として雲漢を摩せる、如何に廣大なりしかを想像するに餘あるべし、城中石壁の中には、長さ八九間ばかりもありと思はる、巨石を用ゐたるなど、坐に其の當時を追懐せしむ。

●天満橋 東區京橋二丁目より北區天満橋筋一丁目に架せる鐵橋なり、長さ百十七間餘、幅六間、其の下を流る、は淀川なり、南より渡れば、全長の三分の一ばかりの處に備前島あり、右折せば網島を経て、櫻の宮に至るべし。

●櫻の宮 大阪城を南に望み、前は淀川に面して、造幣局と相對す、郷社にして天照大神を祀れり、其の堤上數町の間、櫻樹枝を交へ、花時來り遊ぶもの多し、されど舊時に比すれば、櫻樹の枯稿せるもの多く、花は左までにはあらざれど、淀川を隔て、相對せる造幣局の櫻樹は、花を碧流に映して、頗る美觀を極むれば、眺瞻頗る佳なり。

●鶴滿寺

豊崎村大字南長柄にあり、櫻の宮より北の方なる渡津を渡れば、直に此に至る、延享年間、忍鎧上人の再興にして、木尊は、慈覺大師作の阿彌陀佛なり、境内に糸櫻あり、花候に至れば、韻士騷客の來り賞するもの少なからず、茶店等の設あれば、就いて憩ひ、行厨を開くなど、興味深かるべし。

●天神橋

天満橋の西、淀川の下流に架す、大阪第一の長橋にして、長さ百三十一間餘、幅六間、鐵桁、鐵柱を用ゐて堅牢なり、其の北詰を東折したる河岸地は、天満の青物市場にして、毎朝近村より此に持出して市をなすを以て、頗る喧噪を極む。

●高麗橋

高麗橋詰町より高麗橋筋一丁目に向ひ、東横堀に架せり、此の橋は、里程元標の建設地なり、明治三年九月の新築にして、大阪市に於ける鐵橋の嚆矢なり。

●天満天神

北區大工町にありて、天神橋の北六町餘にあり、菅原道真を祭りたる府社なり、境内廣潤にして社殿壯麗なり、本社背後に至れば、觀世物、飲食店等多く、常に雑踏を極む、就中毎年一月二十五日は、初天神と稱して、賽客群集し、老幼婦女は、時としては歩行し得ることありとぞ、また七月二十五日は、天神祭と唱へ、神輿を舟に載せて、淀川を下り、西區松島の御旅所に至り、翌朝還幸するの例なり、此のとき十數艘の警固船には、高く提灯を掲げ、篝火を焚き、且つ送迎の舟は、水上に充滿し、兩岸と橋

上とは、人を以て埋め、雑踏喧噪、名状すべからず、是れ大坂第一の賑にして近國より参観せんとして来るもの萬を以て數ふと云ふ。

●露天神社

北區曾根崎にあり、菅原道真を祀れる郷社なり、むかし、菅原道真、筑紫へ左遷の途次、福島より上陸して此の地を過ぎりしに、たまく路上、露深かりしかば、『露と散るなみだに袖は朽ちにけり都のことを思ひ出づれば』と詠みたりしが、後人其の舊址に一社を營みたるもの即ち是なり。

●夕日天神社

露天神より東三町ばかりにあり、むかし河原左大臣、浪花に遊びたりしとき、創建したるところにして、後、後醍醐天皇の御宇、當社を以て勅願所と定められ、天皇しばく行幸ありしとぞ、當時は社殿宏壯なりしが、足利氏るとき兵燹に罹りて、鳥有に歸し、爾後再三の修補を経て、今日に至れるなり、祭神は、天照大神にして東區松屋町なる朝日天神に對し夕日の名を下したるなり。

●網敷天神

北區北野にあり、夕日天神より七八町、祭神は菅公なり、むかし菅公、筑紫に謫せらる、とき、福島より上陸して此の地を過ぎり、浪花の梅を愛し、留まること二三日、里人等、後世其の舊址に一祠を建つ、即ち本社なり、菅公の敷きたりと唱ふる網の圓座を藏せり、一に北野天神と稱ふるは、京都北野の名に因めるものなりとかや。

●凌雲閣

北區北野の北隅、田圃に接したる處にして、鐵道線路の側にあり、明治二十一年の建築にして、七層の高閣なり、高さ一百餘尺、頂上に登れば、大阪全市は、双眸に集り、東は攝和の高峯雲に入り、北は、沃野十數里、西には、摩耶、六甲、再度の諸嶺、巍然として雲漢を摩し、眺望の快豁、言ふべからざるなり、近傍には、鶴の茶屋、車茶屋、淺妻等の茶店ありて、いづれも割烹を業とすれば、四季の遊覽に適せるの地と云ふべし。

●大融寺

凌雲閣より四五町東南にあり、弘仁年中、僧空海の開基にして當時桂木寺と號す、承和年中、河原左大臣、仁海上人に命じて、之れを修補せしめ、名を大融寺と號せり、境内廣からずといへども、殿堂壯嚴、古刹たるに耻ぢず、東門を入りたる左側に、大なる藤棚あり、此に藤浪亭と呼べる豆腐の料理店あり、ゆかりの浪の濛ふ頃、來り遊ぶもの多し。

●福島天神

三社あり、上福島には上中の兩社あり、下福島には、下の天神あり、相距ること各五町ばかり、いづれも菅原道真を祀る、毎年七月二十五日、天満神社にて夏祭を行ふとき、神輿に供奉する舟は、齎しく三社の前より發す、是れ銚流しの神事の古式に則りしものなりと云ふ。

●逆艦の松

北區上福島にあり、平氏追討のとき、義経景季の二人、逆艦の激論ありし地なり、松は、今や枯稿したれども、其の老幹の半は、尙ほ存して塀外の道路へ突出せしあり、其の側に小祠あり、逆艦の松の名を署せり。

●福島五百羅漢

福島中の天神より、西北五町にあり、寺號を妙徳寺といひ、南海和尚の創建にして、鐵梅和尚の開基なり、本尊釋迦如來の傍に、五百羅漢の像を彫列す、寺域は、田圃に接するを以て、眺望快豁、菜花の候、最も佳なり。

●浦江聖天

五百羅漢の北四町餘に、了徳院といへる精舎あり、本堂には歡喜天を祭れり、俗に浦江の聖天と云ふ、地は浦江なるを以てなり、本堂の背後に小池あり、菖蒲、蓮等を栽ゑ、池畔に割烹店、茶亭ありて、花時來り遊ぶもの少なからず。

●野田の藤

北區野田なる春日神社の境内にあり、藤樹蔓延して老松に纏ひたるもの頗る多く、龍の天に昇らんとするに、小蛇の纏ひたるがごとし、又數架の藤棚あり、花候に及べば、紫白色を争ひ、實に美觀なり、此にある藤の庵といへるは、文祿年間、豊臣秀吉、藤花を遊覧したる跡なりと云ふ。

●天保山

安治河口の南岸にある小丘なり、天保二年、安治河を浚渫したる其の土砂を、此處に積みて、入津の船舶に便ならしめたるものにして、目標山ともいへり、今此

に燈臺を建設す、不動白色にして其の射光十二海里半に達す、近來此の地を開きて遊園地となし、海濱を以て海水浴場に充て、海濱院其の他旅舎料理店等數戸ありて漸次繁盛に赴けり。

以上記載したるところは、大阪城より始まり、淀川以北の地に係れり、以下以南の地に移り、天神橋の西なる灘波橋より起らん。

●灘波橋

中の島を中央に挟みて、東區北濱の北岸より北區樋之上町の南岸に架し、天神橋の西、即ち下流にある橋なり、長さ總て九十七間餘、幅四間四分、橋の中央なる中の島は、淀川の中央にある狭長なる地にして、東端は、浪花橋なり、此の橋と天神橋との間は、夏季納涼の舟遊盛にして、舳舻相合み、絃歌の聲湧くがごとく、其の賑ひは、東都兩國の納涼、京都四條河原のものよりも優れるもの、ごとし。

●中の島公園

中の島の東部にして浪花橋と淀屋橋との間を云ふ、近年これを公園地となしたるものにして、何の風致あるなしといへども、堂島川と土佐堀川(淀川本流)との中間にあるを以て、納涼に適せり、園内に大阪ホテル、洗心館、銀水樓等の割烹店ありて、堂島川に枕めり。

●豊國神社

中の島公園の中央にあり、豊太閤を祀れる別格官幣社にして明治十三

年の創建なり、社背に明治記念碑あり、西南の役、戦死者の靈魂を慰するがために建設したるものにして、毎年五月、此に招魂祭を舉行す。

●博物館

東區内本町橋詰町にありて市立なり、表門は東横堀の河流に面し、裏門

は、松屋町筋にあり、門を入れば、正面にあるは美術館にして、洋風の建築なり。其の内部に入りて仰げば、張天井には、法隆寺、心天王寺等に藏せる古畫を模寫し、床板は、各種の木材を接合したるものにして、西洋臭味を帯びず、館内には、古書畫、古器物等を陳列せり、館の左右には數棟の陳列館あり、恰も東京に於ける勸工場のごとく、數百千種の商品を陳列して、之れを販賣せり、園の東部にある一の建物は、錦織堂とて、皇后陛下の播磨舞子へ行啓あらせられし途次、御休憩せられたまひたるところなり。

●御靈神社

東區平野町五丁目御靈筋にあり、天正年間の創建に係り、祭神は、

天照大神にして、別に鎌倉權五郎の靈を祀れり、賽客常に絶ゆることなく、縁日は一六の日にして、夜中は、多くの露店櫛比し、市街屈指の神社なり、境内の南入口に、淨瑠璃文樂座の操人形あり。

●津村御堂

東區本町五丁目より備後町五丁目に亘りたる區域を有し、本派本願寺

の掛所にして、俗に北の御堂と云ふ、其の南に東本願寺の掛所ありて、南の御堂といふに

對してなり、堂宇宏壯にして棟高く、市街より一頭地を抜き、いづれの高處に上るも之れを看ることを得べし、周圍は、石壘の上に、高き練堀を築き、其の下には小濠を繞らし、一見小城郭のごとく、嚴然たり。

●難波御堂

津村御堂の南、三町餘にあり、俗に南の御堂と云ふ、其の廣大なること、北の御堂に譲らず、東本願寺十二世門主教如上人、將軍家より寺地を賜り、當寺を建設したりしが、慶長の末、此に移したるものなり。

●座摩神社

前記難波御堂の背後、南渡邊町にあり、生井神、阿須波神、榮井神、

網長井神、及び波比祇神を合祀したる府社なり、其の裏門は、西横堀通に通じ、此の邊に、宿席、飲食店等多し、又表門の通は、俗に座摩の前と稱し、古着商軒を並べり。

●博勞町稻荷社

東區上難波町にあり、座摩神社を南に距る二三町、現今の社殿

●阿彌陀池

西區北堀江下通四丁目にあり、天台宗にして蓮池山和光寺と號す、阿

彌陀池とは、其の俗稱なりとす、境内に小池あり、池中岩石の上に、一の寶塔を建て、橋を架して參詣に便にす、此の地は、推古天皇の御宇、信濃の人、本多善光の過ぎりしが、難波の堀江より閻浮檀金の阿彌陀佛を得、これを幸井の里に安置したるは、彼の有名なる

善光寺なり、文祿十一年、智證上人、其の舊地を下して寺堂を草創し、これを和光寺と號せり、毎年涅槃會には、參詣の善男善女いと多く、數百の露店は、近傍に並列し、其の雜踏名狀すべからず。

●四ツ橋 長堀川は西流し、西横堀川は南流し、兩川交叉して十字形をなすところに架したる四橋なり、長堀川にありて上流なるを炭屋橋といひ、下流なるを吉野屋橋と云ふ、又、横堀川にありて、上流なるを上繫橋といひ、下流なるを下繫橋と云ふ、いづれも木橋にして長さ各二十餘間、誰やらんの句に、『涼しさに四つ橋を四つわたりけり』吉野屋橋の南詰に、古來煙管を販ぎて其の名の著れしあり、田舎漢は、これを購ひて歸國の土産物に用ふるもの多し。

●土佐稻荷 阿彌陀池より南三町餘にあり、もと土佐藩邸内なりしが、今は、別に一郭を設けたり、祭神は稻倉魂命にして社殿宏壯ならざるも、清素にして高潔なり、境内に數百株の櫻樹を栽植せしかば、花時來遊の賽客多し、夕に至れば、篝火を焚き、雪洞を點するを以て、浮かれ來るもの少なからず。

●三津八幡 八幡筋佐野屋橋筋の角にあり、應神天皇を祀り、島の内全體の氏神たり。

●三津寺 南區三津寺町にありて、前記三津八幡より二町を隔つ、別に書記すほどのこともなければ、町名に用ゐらる、位にて其の名高し。

●心齋橋 長堀川に架せる鐵橋にして、半月形の鐵桁を以て、全橋を釣りたるものなり、其の南北に通せる一條の道路を心齋橋筋と稱し、凡百の商店軒を並べ、市中最も殷賑を極むるところなり、されど、道路狹隘、雜踏を極むるを以て、土地に慣れざるもの、通行は、危険なしといふべからず。

●道頓堀 はむかし、安井道頓なるもの、開鑿して、舟楫の便を興へたるもの、東横堀川より疏通せり、其の南岸の地は、西は戎橋より東は日本橋の邊まで、十餘町の間、大阪市中最も繁華熱鬧を極むるの地にして、南側には、浪花座、中座、角座、朝日座及び辨天座の劇場あり、北側には、逆旅、割烹店、芝居茶屋等軒を並べ、肩摩齟齬、恐くは他に其の比類なからん。

●千日前 維新前までは、斷頭場のありしところとて、墓石累々、四顧蕭條、狐狸の巢窟たりしが、一たび之れを廢して、市街地を形づくるや、見世物小屋、小芝居、飲食店等軒を並べ、喧噪雜踏名狀すべからざる一の遊覽場となるに至れり。

●法善寺 千日前にある淨土宗の精舎なり、境内は、四通八達、いづれへも脱けら

る、なり、本堂の西に、金刀比羅神社あり毎月十日の縁日には、此に参詣するもの多し、且つ此の邊には、九郎右衛門町、難波新地、坂町等のごとき、藝妓の巢窟にして、綺麗を飾りて白晝散歩し、風俗の取締などは、何のその、と云はんばかりの状態なれば、一入賑はへるなるべし、境内に寄席茶店多く、何時も繁昌を極めり。

●自安寺

法善寺の東南、向側にて道路より引込みたるところにあり、自安寺の妙見と唱へて、俳優藝妓の輩の参詣、常に絶ゆることなく、狭小なる境内は、常に人を以て埋むるがごとし。

●新金刀比羅

自安寺の南二三町にあり、維新以後の創建にして、社殿の構造清酒なり、毎月十日、参詣人殊に多し。

●鐵眼寺

とは俗稱なり、禪宗黄檗派にして瑞龍寺と云ふ、南區難波にあり、初め薬師寺と稱し、數百年前の創建なりといへども、中頃大に衰頽に及びしかば、鐵眼和尚これを再興し、以て今日に至れり。

●廣田神社

戎橋より紀州街道を通り、南の方十二町にあり、市街の南端なり、本社は、天照大神の荒靈を祀り、社地は、老樹鬱蒼として四周を圍めり、近年胡枝花を栽植して景致を添へたるを以て、秋季此に杖を曳くもの多し。

●今宮神社

前記廣田神社の南百數十歩にあり、俗に今宮の戎と云ふ、天照大神、蛭子尊、大己貴命、素戔鳴尊、月讀尊の五神にして社殿素朴、平常は、一人の賽客だもなしといへども、毎年一月十日は、十日戎と稱し、賽客群集して往々負傷者を出すことありと云ふ、是れ此の日、本社に賽すれば、一年の福を授かると言傳ふるが故なり、社殿の屋上は、恰も雪の降りたるがごとく、紙包の賽銭、いと堆し、又南地五花街の藝妓は、綺麗を飾りて、駕籠に乗り、盛装したる數人の男に前後を擁せられ、威勢よく、寶惠籠々々々と叫ばしめて、意氣揚々、群集を押し除けて参詣す、是れ其の費用は遊治郎の負擔するところにして、多きは數百金を要すところ、實に一奇習と云ふべし。

●商業俱樂部

今宮村の東數十町にあり、田圃の中に、數千坪の地を劃し、其の中央に、西洋風三層の高樓あり、其の下に、檜造りの宮殿に擬したる一棟あり、其の周圍は、茶店、割烹店を設け、池あり、假山あり、花園ありて、雅味の掬すべきものあり、又數棟に商品を陳列し、定價を以て、これを販げり、而して本館は、入場料を取りて、公衆の縦覧を許せり。

●天王寺

南區天王寺にあり、荒陵山と號す、今を距ること一千三百餘年の昔、用明天皇の二年、聖德太子、初めて一字を東成郡玉造村に草創したりしが、推古天皇の

元年に至り、現今の地に移したり、天正及び元和の兵燹に罹りて、堂塔伽藍、悉く灰燼に歸したりしが、後、徳川家綱、命じてこれが再興をなさしめしかば、數年の後、堂塔伽藍、舊觀に復し、再び阿彌陀の光を四方に放つに至れり、寺域、東西八町、南北六町、東を本門とすれども、田圃に接し、且つ參詣のものは、西よりするもの十中の八九なれば、西門より出入するもの多し、境内の堂塔頗る多しといへども、其の著しきものを擧げんに、金堂、五重の塔、講堂、太子殿、鐘樓、六時堂、三昧堂、轉輪堂、皇后の宮等とす、講堂と六時堂との間に、一小池あり、其の上に石柱を支へて、舞臺を架す、長さ六間、幅四間、むかし聖靈會の際、俗人の舞樂を奏したるところなり、又龜の井と號して、石を以て疊み、長方形の小池を造り、其の内側面より池底に掛けて、巨大なる石龜を置く、其の口より常に清水を噴出し、六七寸ばかりの經木に、法名を書きたるもの幾十枚となく、投じあり、是れ善男善女が、亡き人の追福を祈らんに斯のごときをなしたるものにして、其の傍の小堂にて、其の需に應せり、境内十數軒の茶店散在して、賽客の休憩を待つもの、ごとしといへども、平素は左まで多からず、されば、春秋の彼岸會及び八月の千日詣には、賽踏群集して其の雜踏名狀すべからず、近年境内の西北三萬餘坪を限り、櫻樹、胡枝花等を植ゑて、これを公園となしたれば、花時參詣を兼ねて來遊するもの多し。

●茶臼山

天王寺の西南二町ばかりにあり、老樹蒼鬱たる一の小丘なり、元和元年、東軍の大坂城を攻むるや、驍將眞田幸村、此處に陣して東軍を苦しめたる後、遂に戦死したるところなり、丘下の南を繞りて、濼渥あり、一大池をなし、水常に漫々たり。

●邦福禪寺

茶臼山にあり、俗に雲水と云ふ、池水に枕みて庭園幽雅なり、春花秋葉に宜しきのみならず、夏は螢、冬は雪の眺ありて、四時飽くことを知らず、寺内の遊息亭となんいへる處にては、精進料理を調進して、甘く喰せるを以て、常に來遊するもの多し。

●一心寺

四天王寺の西、相坂の上にあり、文治元年、圓光大師の開基なり、後、漸次廢頽に赴きしが、下總佐倉の清光寺の住職、存岸上人大にこれを嘆き、慶長の頃、此に來りて之れを再興したりと云ふ、境内清洒にして廣く、三千佛堂、二階堂、御影堂等あり、又其の東隅に一の古墳あり、元和元年、大阪夏の役、天王寺に於いて戦死したる本多忠朝及び其の家臣九人を葬るところなり。

●新清水寺

前記一心寺より北四町にあり、本尊は、聖徳太子の作なる十一面觀世音にして、舊時京都清水寺にありしを、此に移したるものなれば、新清水寺と號せり、本堂は、懸崖絶壁によりて構造し、三方より危道を上りて賽路となしたり、本堂の前なる舞

臺に上れば、大阪市街の南半を一時に集め、遠くは淡路島山の糺糊たるを認め得るなど、眺望明媚なり、本堂の南勝手より石階を下れば、三條の飛泉二丈餘の上より落つ、人造にして音羽の瀧と云ふ、夏時此に來りて、之れに打たる、もの多し。

●夕陽が岡 新清水寺より北に續きたる丘陵にして、西方は、遠く開けて、眺望快裕、新清水寺に譲らず、崖下は梅林に接したれば、花時此處に登れば、清香馥郁として衣袖に薫す。

●隆專寺の櫻 南區西高津なる中寺町にあり、境内に、糸櫻の大樹あり、春陽開花の頃は、來りて之れを賞覽するもの多く、其の名風に著る。

●梅屋敷 隆專寺より七八町の東南にあり、地は、西に丘埠を負ひ、東は開けたるを以て、攝河の沃野を隔てて、生駒、暗嶺、信貴山を望むべく、風光快裕なり、園内には數多の梅樹を栽ゑ、遊人の杖を曳くに佳なるところ、近傍に新梅屋敷あり、梅樹多けれども、未だ稚ければ、老幹はいと少し。

●桃山 梅屋敷より北すれば、小橋の邊に出づべし、此の近傍は、一帯の桃島にして、春時紅雲霞舞、來り見るもの群集して其の雜踏いはん方なし。

●産湯の清水 桃山より東北三町ばかりにあり、清水滾々として湧出し、如何なる

早魃に逢ふも、曾て乾涸したることなし、傳へ云ふ、大小橋命の産湯に用ゐたまひしによりて、此の名ありと。

●産湯稻荷 産湯清水の傍にあり、緑樹の中に赤き鳥居の立てるなど、床しき眺なり。

●生國魂神社 南區西高津にあり、生國魂命、足國魂命を祀り、官幣大社なり、草創の年月詳ならずといへども、一説に、應神天皇の三年、古の難波の崎に草創したりしが、明應四年、蓮如上人、本願寺御堂の前に遷し、大に社殿を改造し、頗る壯觀を極めたり、されど、織田信長、本願寺、僧徒と戦ひしとき、兵火に罹り、悉く灰燼に歸したりしが、慶長の初、豊臣秀吉、今の地に社殿を再興したるものなりと、社地は、丘陵に依りたれば、本社背後、懸崖に臨みて、舞臺を設け、茶店ありて床几を置き、賽客の瞰望に便にす、近きは大阪市街の過半、遠きは淡路島山の雲煙糺糊の間に認むることを得べく、眞に好風景と云ふべし。

●高津神社 南區高津一番町にあり、即ち前記生國魂神社の岡續きにして、其の北二三町にあり、梅が辻通りの表門より入れば、賽路は、花崗石を敷き詰め、兩側には、年古りし松の老樹の枝を交へたるなど、未だ本社に詣でずして、自から神々しさを覺ゆ、凡

そ一町ばかりにして、本社に至る、府社にして仁徳天皇、仲哀天皇、應神天皇、神功皇后、履中天皇を合祀せり、初め本社は、貞觀八年、比賣古曾神社(前掲産湯稻荷の邊)にありしと云ふ)の境内に草創したりしが、天正十一年、此に遷座せりと云ふ、社傍に舞臺あり、懸崖にかゝりて造れり、此に登りて瞰望すれば、道頓堀川を直線に見るべく、これに架せる橋上を歩める人は、寸に滿たざるが如く、馬は豆に似たり、安治、木津、尻無の川口に點々たる白帆、大阪府廳、南北兩御堂等、一々指點することを得べし、舞臺の傍に二三の料理店あり、高津の湯豆腐とて其の名高し、小酌をなすつ、雪景に對せば、實に勝景なりと云ふべし、裏坂の石階を下れば黒焼屋あり、鳥獸の黒焼、一として調はざるはなく、高津の黒焼屋の名、夙に世に響く。

●眞田山稻荷社

東區玉造の東部に、眞田山といへる丘陵あり、元和の頃、眞田幸村が立籠りたる壘壁ありしを以て、斯くは呼べりと云ふ、此の懸崖に姫山稻荷あり、俗に之れを眞田山稻荷と云ふ、眺望の光景産湯稻荷に異ならず。

●豊津稻荷社

眞田山の北五町ばかりにありて、玉造町全部の氏神なり、玉造稻荷といへる方、却て世に知らる、がごとし、稻倉魂命を祀れり、慶長八年、豊臣秀頼の再建したるものにして、當時味原郷(産湯の邊)にありしを、寛永年間今の地に遷したるも

のなりといふ、社殿の背後に舞臺を架す、眺望また眞田山稻荷社に譲らず。

●森の宮

大阪城の東七八町にあり、社地廣からずといへども、城内に小割烹店あり、焼鳥を以て名高し、近傍は、春は摘草の遊によろしく、秋は唧々たる虫聲を聴くに勝れたれば、來遊ぶもの少なからず。

三府名勝案内終

明治三十五年三月十二日初版印刷
 明治三十五年七月十七日初版發行
 明治三十五年九月廿四日增補三版印刷
 明治三十五年九月廿九日增補三版發行

正價金五拾五錢



發行元

編輯者 津田房之助

發行者 大草常章
東京市日本橋區橋町一丁目一番地

印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目十七番地

東京日本橋區橋町一丁目一番地 松榮堂書店

仙臺市大町五丁目 松榮堂分店

三輪田眞佐子刀自
修文館編纂

女子家事訓
全二冊

●上卷 正價 金貳拾五錢
●下卷 正價 金貳拾五錢
●郵稅一冊ニ付 金 四 錢

本書は女兒の家事上の事項を授くるの目的を以て編纂せるものなり近時この種の著書の出づる其の數少からざれども何れも高尚に馳するの傾きありて且記述の體相似ざるはなし然るに本書は之に反して専ら近易着實を旨とし廣く日常必須の事項を網羅したれば高等小學校若くは高等女學校生徒に課するに適當ならんことを信ぜり

東京市日本橋區桶町一丁目一番地

發行元 松榮堂書店

文學博士
佐藤誠實先生校閱
佐藤仁之助君編
新撰假名遣

本書は著者多年の實驗と斯學に名高き文學博士佐藤誠實先生が確實なる意見とに據りて新に著述せられたるなり從來假字遣の書には動詞音便言等の實地に必要なるを疎略にしたれど本書は總べて新式を用ゐて能く此等の積弊を一洗せられたれば今の中學程度諸學校の教科用に適すべきは勿論其の他教官各位が座右に不可缺の最良書なるべき事弊堂の固く信じて疑はざる所なり

和裝美本 全壹冊
正價金廿五錢 郵稅金六錢

●修文館編纂

新撰皇國沿革地圖

●修文館編纂

新撰東洋歴史地圖

●修文館編纂

新撰西洋歴史地圖

●全 壹
●正 金參拾錢
●郵 金六錢

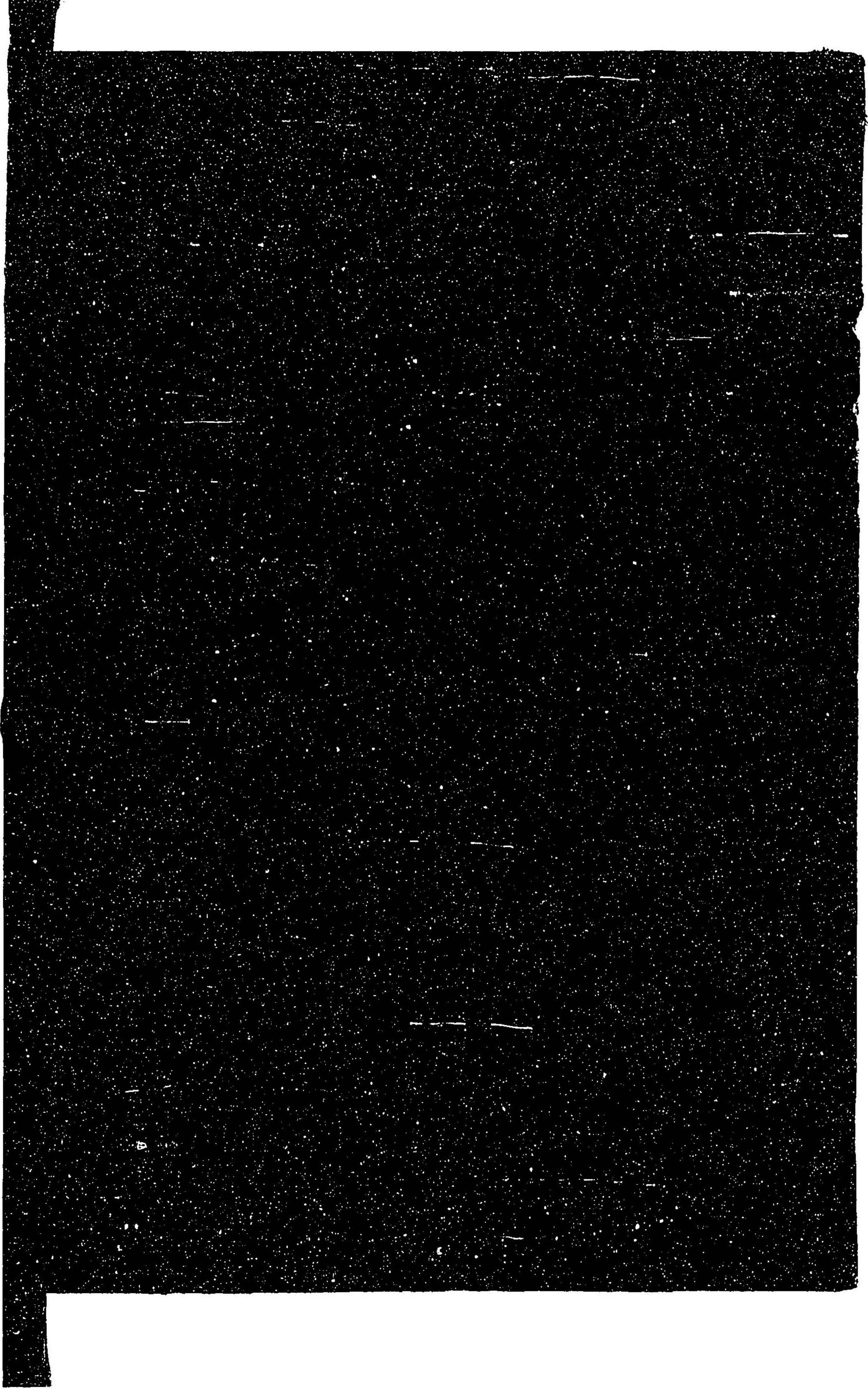
●全 壹
●正 金參拾錢
●郵 金六錢

●全 壹
●正 金參拾錢
●郵 金六錢

右三書は讀史者の參照に供せむか爲歴史の専門家にして多年教海に遊弋し學生教導に練熟せる某氏の草案に就きて弊館更に取捨の勞を執りたるものなれば繁簡その要を獲たるべきを信ず中等學校教科書及参考書として大に可なるべし

96
62

15. 3



96
62

Ⓜ

022478-000-7

96-62

最新名勝案内(全国漫遊)

津田 房之助/編

M35

ADB-0141

